

ソフトテニスに取り組むみなさんへ —フェアプレー・マナーとは—

富山県中学校体育連盟
ソフトテニス競技専門部

1 「スポーツ」の根幹にあるもの

フェアプレーのないところに、真の「スポーツ」は存在しません。不正やルール違反まがいの行為、ドーピング、身体的あるいは言葉による暴力の行使などは、勝利という目的以前に、人としてどうあるべきかが問われることとなります。では、ルールの範囲内でさえプレーしていればよいのでしょうか。いかなるスポーツにおいても、他者（対戦相手、審判、指導者、仲間、家族、…）への尊厳を失うことなく、終始正しく振る舞うことが求められるのです。

2 フェアプレーを支えるのは審判技術

対戦する両者がルールを守り、正々堂々と試合をすることは当然のことです。しかし、審判がルールを熟知し、ルールを正しく運用しなければ、条件の公平性や競技の面白さが保障されないことになってしまいます。

こんな場面を見かけたことはありませんか？

- 副審が判定区分以外のラインに対して、アウトなどのサインをする。
- 副審が同じ位置にとどまっている（正しい位置にいない）。
- 正審や副審の姿勢が見苦しい。
- 正審のコールやカウントが聞こえない。
- 「レッツプレイ」や「レディ」などが言えず、プレーヤー任せで試合を進める。
- 正審が、入っているボールに対し「イン」の発声をしている。
- 「アウト」のコールがあったにも関わらず、不要にボールを打ち返している。

ソフトテニスの大会は、敗者審判を原則としていますから、審判技術を身に付けていることは、試合に出場する際の大前提となります。しかし実際には、勝ち上がっている選手であっても、きちんと審判ができない選手が一部に見受けられます。自分が試合をしている当事者であれば、公正にジャッジしてもらえないとすれば迷惑でしょう。試合をする両者から尊敬される審判を目指さなければなりません。多くの人に感動をもたらす試合というのは、審判によって支えられているといっても過言ではないのです。

3 ソフトテニスにおける「マナー」とは

ソフトテニスに限ったことではありませんが、マナーと言われていることは、ルール（競技規則）では規定されていない、いろいろな人たちへの配慮や思いやりが「かたち」となって表れる行為ではないでしょうか。以下に挙げた例も含め、模範とすべき選手（チーム）の行為をヒントに、自分（チーム）の「マナー」を見つめ、マナーのさらなる向上を図っていきましょう。

* 会場や運営して下さる方への配慮や思いやり

- ゴミを捨てない（持ち帰る）。
- 大会運営や試合進行に協力する（放送で呼び出しを受けない）。
- 共有の道具はもとあった場所にきれいに片付ける。

* 試合をしている対戦相手への配慮や思いやり

- 試合をしていない選手や観客が、インプレー中に声を発しない。
- 相手の失点をしつこく強調するような言動など、相手を不快にするような応援や発声を慎む。
- ルールで定められた時間を超えてベンチにとどまるなど、試合進行を遅らせる行為を慎む。

* 会場で過ごす（試合をしている）他のチームの選手への配慮や思いやり

- 荷物を大きく広げて場所を独占しない。
- 試合中のコート横断に神経を使う（ラリー中以外のタイミングで、身をかがめて素早く、など）。
- 使用しているボールが隣接するコートに転がり、プレーの妨げになることがないように拾う。